

大きくめぐり歩く者

文化と産業の動脈として、歴史的に大きな役割を果たしてくれた道内一の河川・石狩川。「イシカリ」の名はアイヌ語ですがどのようにして付いたのでしょうか。

「イシカリ」Isikariの語頭の「イ」は、地名の場合、神の名などの偉大なもの、恐ろしいものと呼ぶときに「それが」とか「あれが」という言い方で使われます。北海道最大の川であり、時には洪水となつて荒れ狂う、その偉大さを崇め、その恐ろしさをばかつて「それ」という代名詞に置き換えたのです。「シ」は「大きい」「真の」という意味で、「カ

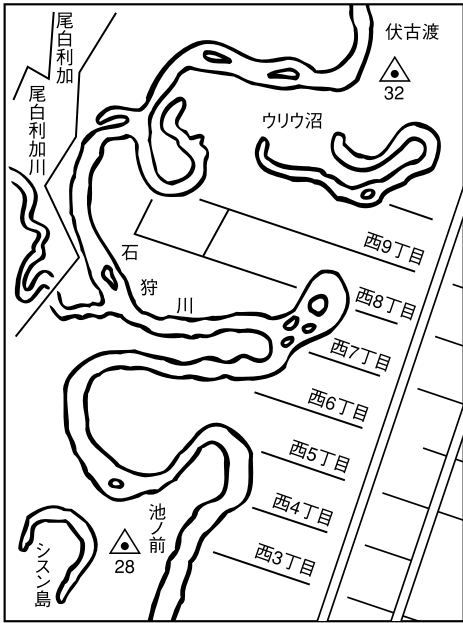


図1 石狩川の自由蛇行図(滝川より北部)

リ」Kariは、〈回る〉〈めぐらす〉の意味です。最後のイは、重母音ですので特に、**イ**で表しますが、動詞・形容詞の後に付くときは〈者〉〈時〉〈所〉〈事〉〈物〉を意味します。石狩川を擬人化して〈者〉としたものと考えて差し支えなく、「イシカリ」は〈それが・大きく・回流する・者〉ということになります。

石狩川の蛇行地形は、「フリーメアンダ(自由蛇行)」といわれるもので、文字通り石狩平野を悠々と自由に回りくねっています。

図1は古びた野帳から書き写したものです。川の上流に海拔32mの地点があり、下流に28mの地点があります。32mと28mの地点の間を流れる石狩川の長さを測ると17kmになります。標高差4mをながれるのに、水平距離が17kmになるといふことは、わずか1mの高低差を流れるのに4km以上も流れなければならぬということなのです。

図2は「フリー・メアンダ」を解説したものです。同じ時間でA-B線からA'-B'線まで流れる水の速さは、外回りのA-A'は内回りのB-B'の3倍もの速さになります。これは人間が一列横隊に並びカーブを回るとき、内側の方が足踏みしている間に外側の人が大股

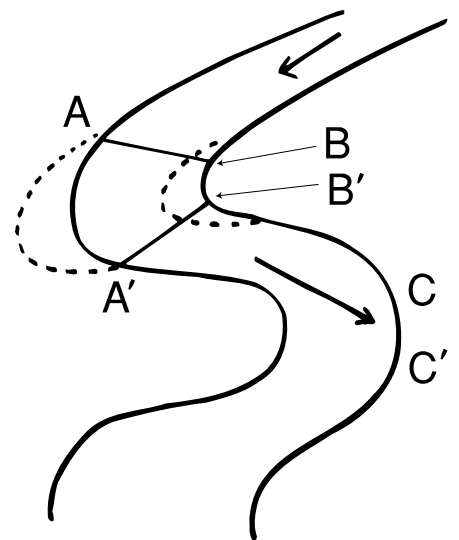


図2 自由蛇行説明図

で走らなければなりません。

水の速さが違うのでA-A'岸には力の強い水が当たり、浸食が激しく陸地を削っていきます。内側のB-B'岸はゆるやかなので土砂が沈殿し、浅くなり砂洲ができます。浸食と沈殿という正反対の力学作用の反復のため、蛇行はさらに激しくなっています。A-A'点の加速された水流が今度はその強い力で反対側のC-C'岸にぶつかっていきます。こうして蛇のように曲がりくねった河川地形ができあがっていくのです。

「イシカリ」〈それ自体・大きく・めぐり回る・者〉は何百年、何千年も前からこうして悠久の流れをたたえ、古代アイヌから尊敬され、親しまれ、恐れられてきた「母なる川」なのです。

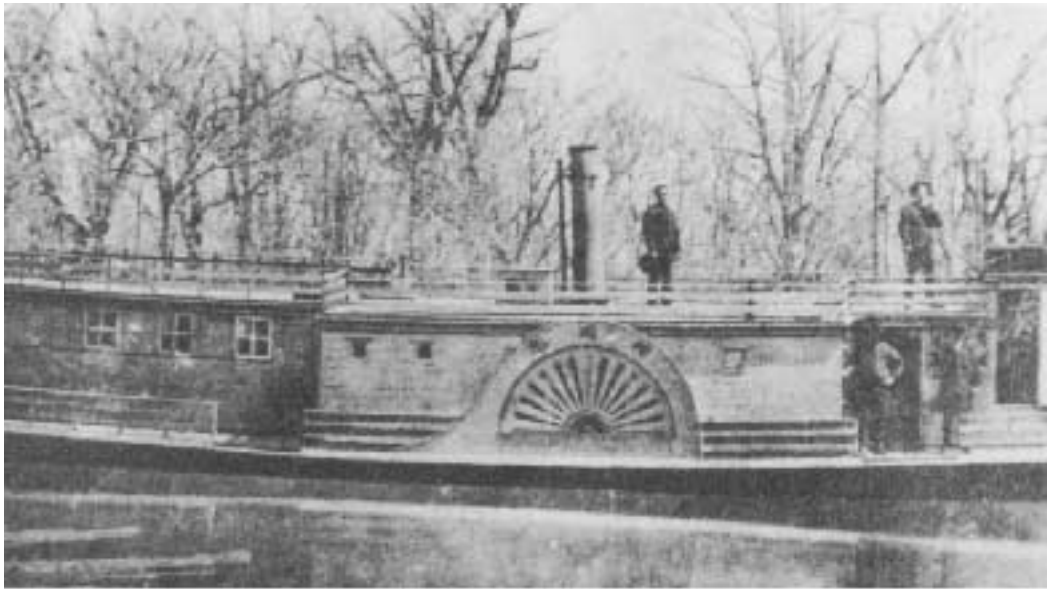
みかえりのニレの木

むかし、月形村を流れる石狩川の岸辺に、1本の大きなニレの木がありました。このニレの木を両手でかかえ、頬ずりするように木の匂いをかぐ男がひとり。さんさんと輝く太陽の光をうけて、自由の身になった喜びを実感していました。それから、川の対岸で見送る看守に伝えるように、大きく手をふりました。

男は、樺戸監獄で長い刑期を終えて、やっと出所したばかりだったのです。辛かった獄中での生活を振り切るように、一直線にのびた峰延道路を急ぎ足で遠ざかっていきます。男はもういちど振り返りました。大きなニレの木は、しだいに小さくなっていきます(さようなら、さようなら……。)。もう二度と見ることはないニレの木にむかって言いました。

このニレの木は樹齢500年以上にもなる大きな木です。明治14年に月形村(現在は月形町)に樺戸集治監(のちの樺戸監獄)ができたとき、すでに大木はこの場所にあります。大正8年に監獄が廃止されるまでの39年間、受刑者たちが作業で戸外に出る

たびに、大きなニレの木が目にとまります。木枯らしが吹く寒い日には、ニレの枝が大きくゆれました。新緑の春には、たくさん



監獄汽船「神威丸」

小鳥が集まり、さえずりの大合唱。大きな木の枝は、子どもを抱きかかえる母親の腕のようでした。

いつか刑期を終えて釈放されたら、あの木に触れてみたい。そう思うと囚人たちは希望がわいてきました。

監獄の正面玄関前から、石狩川に向かってまっすぐに伸びる本町通り。その突き当たりには石狩川が流れています。

川の岸辺には、外輪船が着く監獄波止場がありました。その波止場から少し下流に渡船場がありました。刑期を終えた囚人は渡船で対岸に渡り、苦しかった刑期からの解放感を心ゆくまで味わいながらニレの木をなでまわし、なつかしい故郷に帰っていくのでした。峰延道路を歩きながら、なんども振り返って見るニレの大木。

対岸で見送る看守の姿も小さくなっています。ニレの木もずっと遠く、涙でにじんで見えました。

(さようなら樺戸、さようなら月形……。)。いつしかこのニレの大木を人々は、「みかえりのニレの木」と呼ぶようになりました。

石狩川橋の橋供養

むかし、昭和36年11月、新十津川と滝川を結ぶ石狩川橋の「橋供養祭」が開かれました。石狩川橋は長い間、新十津川や右岸二帯の住民にとって大切な橋でした。ボロボロになった橋は多くの人々に利用され、いまその使命を終えようとしています。

町民は、近々取り壊される橋に感謝し、こぞつて「橋供養祭」に参加しました。古い橋の側には、昭和33年から工事が始まった新しい石狩川橋（昭和37年11月完成）が見えます。橋と橋のあいだに、明治時代の子どもたちと村長さんの姿が浮かんできます。

水田のあぜ道で子どもたちが石投げをして遊んでいます。「こらあ！田んぼに石が入ってしまうんでないかあ。同じ石を投げるんでも、スズメを追い払うとか、もっと役に立つ遊びをしないかあ」と、怒鳴ったのは西村直一村長さんでした。

「お前たちは、どれくらい投げれるんじや？おれは石狩川の川幅くらい投げれるぞ」「村長さん、そんなに投げられるもんかい」と子どもたちがはやし立てます。「おれは、石狩川

の川幅を小石を投げて測ったことがあるんじや」と村長さん。子どもたちは、信じられないといわんばかりに村長さんの顔を見えています。



昭和17年の改修工事で復活した石狩川橋の渡船

明治30年ごろ、石狩川に橋を架けることになり、新十津川の橋本町か、徳富側の新波止場（渡船場）近くにするか、町民の意見がふたつに割れました。

政府の役人が場所選定の視察に来ました。「この川幅は、何メートルあるのかね」と、当時の西村皓平村長に尋ねました。村長は川幅を測ったことがなかったので、あわてました。とつぎに、村長の長男である西村直一青年が、川辺の小石を拾い石狩川に向かって投げました。石は大きな弧を描いて川面にポチャリと沈みました。役人は「どうして、石を投げただけで川幅の長さがわかるのだ？」と聞きました。直一青年は「私は普段から石をどれほどまで投げられるのか知っているので、落ちた場所でおおよその距離がわかるのです」と答えました。役人や付き添いの町の有志たちは大変感心しました。

こうして、橋は橋本町に架けられることが決定しました。明治35年8月に、石狩川で初めての鉄橋が完成したのです。

石狩川橋は、大正と昭和に大改修しましたが、木造部分の傷みがひどく、取り壊しが決まりました。町民に愛され、重要だった橋に感謝して、針供養ならぬ「橋供養」を行いました。こうして昭和39年に、橋は解体され長い歴史の幕を閉じました。

神居古潭の神々

ずっと昔の大昔、海は上川地方の神居古潭のところまでありました。石狩川河口の近く(いまの神居古潭のところ)に、大勢の石狩アイヌが仲良く暮らしていました。

石狩川の神であるチョウザメは、いつも神居古潭の近くにいて、天気の良い日は水面に背びれを出してゆうゆうと泳いでいます。

このチョウザメをシヤメカムイといい、ヌプリコロカムイ(山の神)のクマとは大変仲良しでした。アイヌの人たちは、一方は水、一方は山の守り神として大変、尊敬していました。ふたつの神と同じように、石狩アイヌと上川アイヌも仲良しでした。

秋になると石狩川にサケがのぼり、その群れで川の水はふくらみました。両方の集落のアイヌたちは、最初にとったサケをシヤメカムイと山の神に捧げるのです。

また、アイヌの人たちは石狩川を丸木舟でのぼるとき、必ず舟べりをトントンとたたきます。

「私たちは、神様を尊敬しています。」と、石狩アイヌであるという合図をし、シヤメカム

イに告げます。すると無事に通過することができるので。もし、舟の両方のへりをたたかないで奥へ入ろうとすると、石狩川の神であるシヤメカムイは怒り、舟を通過させてくれません。

舟を動かないようにするか、舟をひっくり返して乗っている人を川に沈めてしまうのです。こうして、石狩アイヌ以外の人が山の奥へ入ることを禁止し、集落の人たちを守っていたのでした。

上川アイヌも、シヤメカムイとキムンカムイ(熊)に見守られ、平和な日々を送っていました。二つの神様がいたこの土地を、誰いともなく神居古潭(神様のいる集落)と呼ぶようになりしました。

ところがあるとき、怪物の神、ニチエカムイがここに現れました。

魚をとるアイヌの人たちに悪さをし、人間たちを滅ぼそうと大暴れます。それを聞いたシヤメカムイはたいそう怒り、ニチエカムイと大格闘になりました。

周囲の崖は崩れ、木をなぎ倒し、岩は砕けて石が飛び散り、小石がうずたかく積まれました。怪物の神、ニチエカムイは、とうとう

捕らえられて殺されて、岩にされてしまいました。この岩はむかしニチエカムイといわれましたが、現在は夫婦岩と呼ばれています。シヤメカムイとニチエカムイが格闘したときに、うずたかく積まれた小石は、その後、川の水がそれを押し流し、今の石狩の方まで陸地が出来てしまったそうです。



神居古潭